

丈夫 「健康」と同じ。

消防 「火事」の手まねをして、両手でポンプのホースの筒先を持って左右に水をかける身振。

書記 事務——男性（或女性）

職業 「仕事」或は「商い」

職工 工場（機械）^{男性}（女工）

諸君 掌を下向けに右手を左肩辺りから前の空間を右へ弧を描いて運動させる。誰れもがする満堂の聴衆によびかける身振り。

処女 結婚——まだ——若い——女

書齋 本——見る——字を書く——部屋

除籍（除名）左手掌の上に、右手の五指を集めた指頭をつけ、その手を手前の方へ、払い除くように引き離す。「就職」「就任」の反対の運動。

署長 警察——主人

シヨート（遊撃手）野球の遊撃手の「遊」

をとって、即ち「遊ぶ」の手まねをすればよい。
書道（習字）左手肘を机につけた姿態をして、その左手の手甲の上に右手の手首をのせ、文字を書く身振り、これは「事務」と同じ要領の手まねであるが、文字を書く身振表現は大きくすること。

書物（本）合掌した両手を書物の形に開く

庶務 左掌の上に、右手の人差指の指頭で二三行ばかりの線を書く。いろいろな事務の書類に線を引いて片づけて行くと云うこと。

助力 骨折り（掌を下に向けて拳にした左手の腕の上を右手拳で叩たく）——与える（右手掌を上向けて前にさし出す）

上品 「高尚」と同じ。

醬油 小指の先を僅かになめて見る。人が醬油の味を見るように。

知らない (4) 右胸脇に右手の五指の指頭をつけ、胸の上の埃を払い落すように上下に

運動させる。(何) 全く知らないと強調する場合
合は片手の掌で両眼を被う。

知る 「賢い」と同じ手まね。

標しるし 「揭示」と同じ手まね。

白い 人差指で自分の歯を指さす。歯の
「白さ」を示したものの。

城 指頭を上にした人差指をまるめに曲
げて両手を左右に向い合わせる。城の鯨を描
写したものの。

素人 掌を下に向けた左手を拳にしたその
腕の上に(手首に近いところ)に右手の人差
指を一の字につける。昔の軍隊の袖の一本筋
の新兵から来たもの。

神經(神經質) 指頭を上にした右手の人
差指を右頭のかめかみ辺りに横づけして、そ
の人差指を曲げ伸ばししながら上の方へ通わ
せて行く。神經質な表情にはかめかみ辺りに
青い動脈の筋が走ることから。

診察 脈をとり(自分の左手の脈を右手で

とり)——聴心器を耳につけ、患者の胸にあ
てる身振——小首を傾け考える表情。

新参 「素人」と同じ手まね。

神社 左右両手を家形に合わし、五指を互
の指の間に入れて交叉し、凡ての指先を上
に出し、神社の建物の形をつくる。

紳士 高尚——男性。

信じない 指頭を上にした親指と人差指
(人差指以下四指は折り曲げられてある)の
間で顎の下を挟むように支え顎を上へ突き上
げる。「一杯喰う」の手まねでは、顎がはず
れる身振をするのに対して、その逆の意味を
表わすために、顎を上へ突き上げる訳である
信ずる (何) 委かせる——大丈夫(ことが出
来る)——思う (何) その人(男性或は女性)
——云うこと(いろいろ)——嘘——ない——大丈夫
——思う。(何) 信心すること。伝(神)——心——